

## 2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 12 日作成)

小委員会名	空間データ利用小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (都市環境・都市設備運営委員会)	
設置期間	2005 年 4 月～2009 年 3 月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	1. GIS(地理情報システム) リモートセンシング技術を都市(環境)計画、防災計画等への活用可能性を検討する。 2. 「地理情報システム・リモートセンシングに関する研究論文選集 第 5 集(都市・建築環境)」を取りまとめる。	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有 須藤諭(東北文化学園大学) 依田浩敏(近畿大学) 小松義典(名古屋工業大学) 飯野秋成(新潟工科大学) 岩井一博(信州大学) 川村広則(東北文化学園大学) 客野尚志(兵庫県立人と自然の博物館) 斉藤郁雄(八代工業高等専門学校) 田中貴宏(神戸大学) 松岡昌志(防災科学技術研究所) 吉田聡(横浜国立大学) 川崎昭如(横浜国立大学) 主査 幹事	
設置 WG (WG 名：目的)		
2006 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項目	自己評価
委員会開催数	4 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	2007 年 3 月 6 日に公開勉強会(主催：日本建築学会環境工学委員会都市環境・都市設備運営委員会)実施予定
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 初年度に引き続き、委員構成メンバーによる勉強会を実施した。勉強会はインターネット電子会議システムによって実施した。(計画通り進行) 2. 論文選集作成の作成作業を本格化し、研究文献リスト等のデータ収集を図るとともに、研究文献リストデータがデジタル化されることを想定し、あらたに文献分類インデックスの付与作業を行った。(計画通り進行) 3. HP 等による情報公開については、具体化させることができなかった。
委員会活動の問題点・課題	1. 当小委員会はデータ利用法についての検討となっており、他の小委員会との関連を検討する必要が出てきている。 2. 当小委員会において対象と考える空間データの利用は、建築学会以外でも多くの事例が存在する。これらを何処まで調査実行するかが課題である。

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。

\* 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

## 2006 年度 小委員会活動 自己評価

## (中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	B
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>当小委員会の前進としては、1986年4月より1992年3月まで都市エネルギー小委員会、1992年4月より2003年3月までリモートセンシング小委員会(平成8年4月より改組によりWG)において、建築・都市分野(特に緑と熱に関する)へのリモートセンシングの活用について検討が行なわれてきた。</p> <p>前進委員会からの申し送りもあり、当小委員会において「論文選集」のとりまとめを行なうことで、RSあるいはGIS等の空間データ利用研究の系統的整理を行なおうとしている。</p> <p>リスト化は進んでいるが、論文選集への収録の問題として、他学会等において発表された論文などの場合に、著作権について十分に注意する必要がある。</p> <p>HP等での情報公開は、この研究リストの完成を待って行いたいと考えているため、当初予定よりは遅れる状況となっている。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。